

第18期第8回常任理事会議事録

日時 昭和50年4月14日(月) 14.00~17.30

場所 気象庁観測部会議室

出席者 磯野, 小平, 浅井, 朝倉, 大井, 奥田, 神山, 河村, 北川, 二宮, 野本, 丸山, 各常任理事
川村, 三谷各理事

報告

[庶務]

1. 昭和50年度総会に会費値上げのための定款の一部改正案を提案することについて各理事に意見を徴したところ可とするもの26人, 否とするもの1人であった。
2. 3月20日, 1月27日付で会費未納額の納入をお願いし今後の取扱について2月末日までに回答されるよう連絡したが未回答の18名に対し, 会員名簿から削除する旨通知した。

沖縄支部事業概要

(1) AMTEX 特別観測のために来沖中の研究者による気象講演会を2月24日から3月3日の期間に開催, 沖縄気象台5回, 琉球大学1回, 宮古島地台1回, 石垣島地台回の計3回で講師は延11名であった。

(2) 3月18日に沖縄気象台と共催で第3回沖縄地方気象研究会及び支部総会を開催の予定。

[会計]

3月分会計報告, 支部交付金について基本額7万円+(350円×会員数)という提案が了承され, 5月の全国理事会に諮ることになった。また, 賛助会費を最低3万円以上にすることにつき, あらかじめ公文書によりお願いすることにし, その文案が了承された。

[気象集誌]

504頁の予定であったが525頁となった。

[会術会議]

北川理事から学術会議との懇談会の模様について詳細な報告と最近の委員会の活動状況について報告があった。

[講演企画]

1. 関西支部より昭和50年度秋季大会の会場が府立商工会館にきまった。
2. 秋季大会のシンポジウムは次のように決まった,
 - 1) 瀬戸内海沿岸付近における海陸風と大気汚染
広島女子大 宮田 賢二
 - 2) 海陸風と沿岸都市汚染
大阪管区大気汚染センター 佐藤 功
 - 3) 関東地方の汚染シミュレーション
気象研究所 河村 武
 - 4) 海陸風のシミュレーション
気象大学校 荒川 正一

議 題

1. 総会準備について
理事長あいさつ
昭和49年度事業経過報告 } 次回の理事会で更に審議する。
昭和50年度事業計画
2. 昭和51年度当番支部について
中部支部にお願いすることにする。
3. 外国学生会員の取扱いについて
定款改正を要するし, 取扱上種々面倒な点があり
外国に在るの学生会員は認めないこととする。
4. 日本学術会議の活動状況を広報する担当理事について
神山理事とする。

———会員の広場———

気象レーダーの外人研修生に同行して

わが国の海外技術協力の一環として, 49年10月から4ヶ月間, 韓国, タイ, ラオス, クメール(カンボジア), マレーシア, アルジェリヤから留学生を招き, 海外技術協力事業団の要請に応じて, 気象レーダーの研修が気象庁本庁を中心に気象研究所, 気象大学, レーダー製作会社等で行われた。

この研修計画最後の実習研修の場として, 名古屋, 大阪(高安山)レーダーが選ばれた。

このため, 今年1月13日から24日までの12日間, 名古屋, 関西方面へ研修生に同行する機会を得たので, そのときの気付いた点を述べてみたい。

今回の研修生は, 職歴から見たかぎりでは, 予報官, プロッター, 航空気象従事者通信専攻の大学生等, その専門分野は多岐にわたり, それぞれの国における中堅どころの活躍盛りで平均年齢31歳, いずれは各国において指導的立場に立たれる方達ばかりであった。

彼等にとって, この度の旅行は訪日以来初めての経験

であった。

名古屋を訪れた1月13日は, 9年振りの大雪(積雪15cm)に凜舞れたその翌日であったが, 南国からの留学生には生れて初めて手にする雪はめずらしく, “ワンダフル”の連発であった。

成人の日(15日)の午後, 大阪城を訪れた。成人式を終えたばかりの娘さん達のあでやかな晴着姿が, 彼等の目を心行くまで楽しませてくれたことも一つの大きな収穫であったと思う。

時々催した夜のひととき宿舎での酒パーティーは, 習慣の違いや, 言葉の不自由さをのりこえ, なごやかな雰囲気作りで極めて有効的だった。

短期間ではあったが彼等と生活を共にすることによって発展途上国における人達の前向きな国家意識の強さを感じさせられた。

大阪管区では忙しい業務の合い間に, 台長自ら高安山レーダーに案内して頂いたときは, 比較的封建思想の強いお国柄の彼等にとっては考えられない出来ごとだったらしく, そのことが彼等に一際感銘を与えたのが印象的だった。

(気象庁測候課 片桐隆朝)